

# ぼくが生きてる、 ふたつの世界

伝えられない想いが  
あふれます。

監督:呉美保 主演:吉沢亮 脚本:港岳彦

忍足亜希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 鳥丸せつこ でんでん

原扶貴子 山本浩司 河合祐三 長井恵里

原作:五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース:山国秀幸

製作:「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワンダーガストリー/博報堂DYミュージック&ビジュアルズ/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アイ・ビー・アイ/アミューズ/河北新報社/東日本放送/テレビ朝日)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給:ギャガ GAGA+ gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA★  
GENOA GROUP

＊コードがきこえない、またはきこえにくい親を持つ聴者の子供

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく……。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、「きこえる世界」と「きこえない世界」を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者の心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亜希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



## 母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

としては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”の楽しい日常だった。しかし次第に、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが……。



「ぼくが生きてる、ふたつの世界」名取市上映会

2025年 **9月28日(日)** ①10:00 ②13:30 ※開場：各回 30 分前／上映時間 105 分

**名取市増田公民館ホール**

満席の際は次回にお回りいただくこともございます

※増田公民館駐車場（有料）は数に限りがあります。市役所駐車場（無料）をご利用ください。

**前売券 一般・シニア・大学生 1200円**

**当日券 一般・シニア1500円 大学生1300円 小中高生800円（小学生未満無料）**

【前売券取扱所】名取市身体障害者福祉協会（名取市役所1F 022-724-7107）

【主催】「ぼくが生きてる、ふたつの世界」名取市上映実行委員会

【お問合せ】名取市身体障害者福祉協会（名取市役所1F 022-724-7107）